

地元・空知の支援を受け 道議会へ！

23,041票の重み、地域格差解消に全力

稲村ひさお 道政だより



当選確実の報に喜びを表す稲村夫妻と高橋由紀雄前道議



発行
稲村ひさお事務所

〒073-0113
砂川市晴見3条
北10丁目9番4号
TEL0125-54-3385
FAX0125-54-3385

本年四月に行われた北海道道議会議員選挙におきましては、皆様から本当にあたたかいご支援とご協力を賜り、初陣を飾ることができました。心から感謝とお礼を申し上げます。

皆様からのご支援・ご協力、「稲村ガンバレ!」というご期待に応えるべく、今回の結果におごることなくしっかりと気を引き締めて、全力で道政に取り組んで参ります。

今後ともご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

選挙後、皆様のごところにできる限りご挨拶に伺っていますが、まだ回りきれていません。まだお伺いしていない皆様、すみません!もうしばらくお待ちください。また「まだ挨拶に来てないよ!」とのご連絡をいただければ幸いです。

北海道道議会議員

稲村久男

所属委員会決定!

5月10日から開催された選挙後初の臨時議会で議席の配置、所属委員会などが決定しました。

議長は、一年生議員ということもあり、最も注目される最前列になりました。また所属委員会は、「総務委員会」と旧産炭地を多く抱える中空知にはかわりの深い「産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会」に決定しました。また、一年生議員としては異例ながら、「議会運営委員会」に所属することも決定しました。

会派名称	所属人数
自民党・道民会議	52人
民主党・道民連合	40人
公明党	7人
フロンティア	5人
日本共産党	2人
合計	106人

平成19年第3回定例道議会

地域医療・夕張問題などについて一般質問

道議会において、初の一般質問

平成19年第3回定例道議会は9月20日から10月5日までの18日間の日程で開催されました。代表質問を経て一般質問が行われ、その中で私は民主道民連合の一番手として登壇しました。地元後援会から駆けつけた傍聴の皆さんが見守る中、緊張いたしました。質問を行いました。質問内容と答弁は次のとおりです。

夕張問題について

一、夕張に対する支援継続について
夕張への支援についての代表質問に対し、職員派遣、赤字相当額の貸付や市道の除雪などの支援を行っているとの答弁があった。これらの支援について、本年度以降も継続するのか。また、新たな支援も考えているのか。

答 夕張へは、これまででもできる限りの支援を行ってきた。今後においても必要な支援・協力を行っていく。

二、再建計画の見直しについて

現在の夕張は計画の実行が優先されるあまり、地域が崩壊しかねない状況にある。私自身も地元の声を聞いてきたが、「生活が大変だ」との声が多い。財政再建計画をもっと大きく見直すことが必要なのではないか。

答 今回、国の同意を得て、再建計画の変更を行ったが、随時変更すること

ができることとなっており、引き続き必要な助言・協力、そして国との調整にしっかりと取り組んでいく。

三、市職員の職場環境について

現在夕張市の職員は、過酷な勤務が続く状況に置かれており、さらに多くの職員が退職の意向を示していると聞いている。このままでは、自治体機能の維持も難しい。職員が意欲を持って働ける環境を作っていくなければいけないのではないのか。

答 勸奨退職制度や給与の削減が大きくな要因となって、退職者が増加している。財政再建と地域再生を行うため、行政執行体制の確保が重要であると考えているが、市の対応状況をふまえ、引き続き必要な助言・協力を行っていく。

広域消防問題について

一、消防広域化に関する認識について

昨年消防組織法の改正があり、今年度中に「消防広域化推進計画」を策定しなければならぬ状況にあると聞いている。広域化による住民生活に対する影響や、消防の管理者である市町村長等の意向をどのように反映する考えなのか。

答 消防は災害対応力が弱いとされており、小規模な消防本部が多数存在していることから、広域化は避けられない状況となっている。広域化した場合、消防力強化や行財政での効率化が可能になる。また、推進計画については、人口・地理生活圏の状況を考慮しながら検討協議を行い道民の意見を取り入れながら計画を策定していく。

二、組合消防の自賄いについて

道は自賄い方式を解消していくというが、組合を構成する市町村長が、実態と責任で消防力を整備するというところから、一概に悪いとは言えない。それよりも、構成市町村と消防本部が密接な関係に努め、運営方法を改善することが重要である。広域化した枠組みの中で、どのように解消しようと考えているのか。

答 個々の市町村の消防にかかる経費を各々で負担する自賄い方式は、消防の組合化を進め、消防の常備化を確立するために、やむを得ない手法として用いられてきたものと考えている。しかし、これからの広域化に向けた取り組みで改めてこれまで以上に解消に向けて模索していきたい。



答弁に対する私の指摘

消防の広域化は、国及び道の方針や厳しい市町村財政状況などからみて、将来において必要なことと十分理解できるが、最も重要なことは、住民や市町村に密着した「安全・安心」な消防体制を構築することである。消防の広域化は、国で示した人口規模のみにとられ、拙速に進めるのではなく、道内の地域事情や消防体制の実態に配慮して検討を進めるよう強く求める。

地域医療問題について

一、自治体病院に対する認識について
道内の自治体病院は、過疎化に伴う



患者の減少や医師不足、国の診療報酬の引き下げによる経営悪化など厳しい状況にある。地域住民が安心して暮らすためには、医療が安定的・継続的に提供されることが大前提である。道内の医療提供体制の中で自治体病院が果たしている役割と当面の課題についてどのように認識しているのか。

答 道内では自治体病院が、非採算部門を含めて地域医療の確保に大きな役割を果たしているが、多くの病院では、一部の診療科を休止するなどの状況が生じている。医療機能確保と病院経営健全化が課題となっている。

二、自治体病院への財政支援について

自治体病院では、不採算医療に取り組み、多額の費用をかけ人員確保・設備の整備などの体制を整え維持している。医療提供体制を確保するためには何らかの財政支援が必要ではないか

答 自治体病院は極めて厳しい状況の中で必要な医療を確保するために、幅広い分野を担っている。今後も、地方財政措置や診療報酬の適切な見直しについて国に強く働きかけていく。

三、適切な受診の普及・啓発について

近年医療を受ける側のモラル低下な

どにより、本来必要とされる救急医療の提供に支障をきたし、医療の連携体制が機能しないなどの事態が全国的に発生している。これらの問題は、道としても住民に対する広報・啓発に努める必要があると考えるがどのように対応しようとするのか。

答 休日・夜間受診の増加や、専門的な診療受診の志向により、比較的軽症の患者が2次医療機関に集中する傾向がある。このため、症状に応じた受診を促し、救急車や救急医療機関の適切な利用について啓発に努め、情報を広く道民に提供する。



四、自治体病院広域化連携構想について

連携を推進する区域として30区域を設定している。しかし空知を見ると隣り合う自治体で、車で10分程度でも区域が分かれるなど疑問を感じる。どのような手法で設定されたのか。

答 自治体病院等広域化連携構想では、患者の通院状況から見た市町村のつながりなどで区域を設定し、核となる病院と、他の医療機関とのネットワーク化を図り、効率的なサービスの提供を目指すこととしている。実現に向けては、新たに設定する区域において中核となる病院を位置付けると共に医療機能の見直しを進めることにより、医療機能の確保と病院経営の健全化を図っていききたい。

五、拠点病院への支援について

地域によっては拠点病院に医師を集約し、地域の病院へ派遣するなどの対策をとっているが、拠点病院では医師にかかる経費の増加や、また医師の数は十分とはいえない。大きな負担を強いられる中核病院が立ち行かなくなれば周辺地域の医療体制自体が崩壊する。拠点病院への財政支援が必要ではないか。

答 これまでも、第2・3次医療圏ごとにセンター病院を設置し、これらが行う施設・設備の整備を支援するとともに、地域への医師派遣や医療従事者に対する研修等に助成を図っている。今後も、医師確保対策に取り組む。



道議戦、激闘を制す

候補者名	総得票数
当 稲村ひさお	23,041
当 稲津 久	26,112
当 北 準一	22,392
当 釣部 勲	21,180
棚田 繁雄	16,194
佐藤 陽子	9,064



ひさおの活動アルバム



参議院選挙



深川市での道政懇話会



産炭地振興・エネルギー問題調査
特別委員会 釧路調査



連合後援会発足式
会長に高橋田紀雄前道議



逢坂衆議との街頭演説



下川町サンルダム 現地調査

